

地域医療学講座 年報

—第6号—



愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座
〒791-0295 愛媛県東温市志津川
(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5132

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

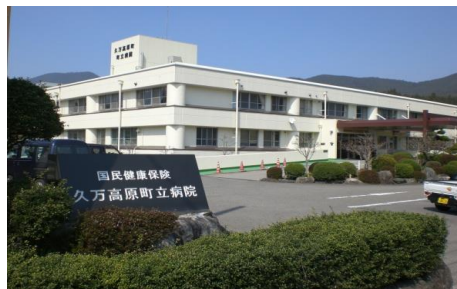


西予市立野村病院

〒797-1212

愛媛県西予市野村町野村 9-53 番地

TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938



久万高原町立病院

〒791-1201

愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地

TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121

目 次

- 地域医療学講座の使命と取り組み
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 教授 川本 龍一 1
- 地域医療学講座設立7周年を祝して
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・愛媛大学大学院医学系研究科長 満田 憲昭 2
- 久万高原町サテライトセンターこの1年間の活動
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 准教授 熊木 天児 3
- 地域医療学でのこの一年
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 助教 二宮 大輔 4
- 学外講師・・5

- 地域医療教育活動・・ 7
- 第7回全国シンポジウム「地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」に参加して
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 助教 二宮 大輔 10
- 第14回愛媛プライマリ・ケア研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 愛媛県主催医学生サマーセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

- 地域医療学専門研修案内・・15

- 地域に生き 地域で働く医師を 地域を舞台に育てる
後期研修医との研修 振り返り Q&A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 平成26年度 地域医療学講義日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

- 平成26年度 地域医療ワークショップ（地域枠学生対象）・・・・・・・・・・・・・・・・22

- 基礎配属学生の研究成果・・23

- 第5学年臨床実習 地域医療学 班別名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

- 業績・・25

- その他・・32

- マスコミ取材・・33

- 編集後記・・34

地域医療学講座の使命と取り組み

地域医療学講座 教授 川本 龍一

本年もこれまでと同様に関係者各位、サテライトセンター設置自治体・職員、地域住民の皆様のご協力を頂き、様々な取り組みを進めることが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。

両サテライトセンターは、愛媛県の山間地域にあり、65歳以上の人口の比率である高齢化率は2014年4月1日現在で久万高原町は44.57%、西予市は38.51%となっています。県内最低の松山市の24.17%と比べて著しい高齢化が進んでおり、都市部の10年先の社会を歩んでいます。すなわち、数年前から既に2025年問題には直面しており、保健・医療・福祉のニーズとそれに対する取り組みは、超高齢社会におけるそのものであり、将来の日本の縮図のような環境下で活動しています。

さて、そのような状況において急速に増えているのが、肺炎、脳梗塞、心不全の急性増悪などの急性期医療を必要とする高齢患者です。特に休日の救急日になると地元は元より車で1時間以上離れた地域からも急患として搬入されてきます。患者の平均年齢は80歳をはるかに超え、1人の患者が主疾患以外にも多くの疾患を抱えており、それが複雑化しているのも最近の傾向です。一方、そうした疾患も医療の進歩により比較的速やかに改善はしますが、残念ながら元に戻すことは困難であり、何度も繰り返すことから退院後の継続的なケアは不可欠です。現在、病院医療は急性期・重症者のみを診るところと位置付けられつつあり、落ち着いた患者さんを地域で診ていくために在宅医療や地域での多職種連携の取り組み、すなわち地域包括ケアの充実は今後益々必要となってきます。

このような状況のもと、地域医療学講座では、地域住民のニーズに応えるべく、入院・外来医療のみならず訪問診療や訪問看護の導入、さらには病院から離れたへき地では、出張診療所で診療を行い、できるだけ患者が自宅で安定した生活を送ることができるような仕組み作りに取り組んでおります。この現状を実習することは、高齢者疾患、地域包括ケア等来るべき高齢化社会の縮図を体験する貴重な機会となっております。

診療支援では、地域における保健・医療・福祉の輪の中で地域住民を支える多職種連携のネットワーク作りにも協力し発展させています。予防事業で地域住民に対して働きかけをし、病気にならないようにする仕組みづくりも重要です。元気な高齢者を増やしていくことにより将来的な医療費の削減および街全体の活性化に繋がることが期待されます。もう一つ、地域に対する働きかけとして、虚弱高齢者が集まる生き甲斐デイサービスの場を利用して、最期をどのように過ごしたいかを各人が真剣に考えるよう促す「豊かな死」に関する教育にも取り組んでいます。

研究活動としては検診事業に協力していただき、住民健康調査などにも取り組みました。また、第3学年に対する大学での講義も増え、教育内容も充実してまいりました。

医師の偏在、へき地の急速な高齢化と人口減少など大変な時代ではありますが、地域から診ることの出来る医師の養成は益々必要とされております。これからも教育・診療・研究と様々な事業で皆様からのご支援をお願いすると存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

地域医療学講座設立7周年を祝して

愛媛大学大学院医学系研究科長・医学部長

満田 憲昭

地域医療学講座設立7周年、誠におめでとうございます。貴講座がこの7年間に愛媛大学医学部の学生教育において果たした功績は、計り知れないものがあります。それをゼロから作り上げてきた川本先生をはじめスタッフの皆様に敬意を表したいと思います。

地域医療学講座は平成21年に愛媛大学医学部に最初に設置された地域医療系寄附講座です。地域医療学講座に続き、平成22年には地域生活習慣病・内分泌学講座、地域救急医療学講座、地域医療再生学講座の3講座、平成24年には地域眼科学講座、平成27年には地域小児周産期学講座が設立されました。愛媛大学医学部は現在では6つの地域医療系寄附講座を有し、これらが協働して、地域医療に貢献できる人材育成に努めています。また、西予市、四国中央市、久万高原町、内子町、八幡浜市、愛南町等、県内各地に地域サテライトセンターを設置しています。地域医療学講座はその長男であり、これらの寄附講座を統括する役割を担っています。

愛媛大学医学部には、平成21年度より地域枠奨学制度による医学生が入学しています。平成26年度末には10名の第一期生が卒業し、現在は医学部附属病院で初期臨床研修を行っています。彼らは来年度には、県内各地の基幹病院において、愛媛県の地域医療を担う医師として活躍することになります。医学部にはさらに、6学年合わせて98名の奨学生が現在も在籍しています。いよいよ、地域医療学講座が大活躍する舞台が整いました。愛媛県の総合診療医の育成において、存分にリーダーシップを発揮していただきたいと期待しております。

久万高原町サテライトセンターこの1年間の活動

地域医療学講座 准教授 熊木 天児

久万高原町サテライトセンターでの活動も6年目が終了しました。例年と同様に病院の敷地内で宿泊しながらの実習を行っています。さて、去年は赴任してから半年しか経っていない時点での寄稿でしたが、あれから1年がさらに経過しました。赴任以降、私自身が感じたことを含め、この1年の活動を振り返ってみたいと思います。

まずは、地域医療、プライマリ・ケア、総合診療という言葉の定義が難しいということです。先日、つくば市で開催されましたプライマリ・ケア学会でも「プライマリ・ケア」の定義が難しいとの議論だけで白熱しました。難しくしているのは、重複する部分があるからだと思います。しかし、私自身はあまり難しく捉えない様にしております。プライマリ・ケアは訳のまま初期対応。総合診療はどちらかと言えば総合病院型の総合診療だが、家庭医が入ってくると話はさらにややこしくなります。地域医療は地域に密着した医療。どうしても、実習の舞台が松山市の都会に比べると僻地に該当するため、誤解のない様に説明しております。言葉の定義はさておき、下記の表の如く、大学病院と比較して説明しております。少し極端の様に映るかもしれませんが、学生はきれいに2群に分けられるものではないことを理解しておりますので、ご安心ください。

	大学病院	地域医療
医学 vs. 医療	医学	医療
Disease vs. Illness	Disease	Illness
EBM vs. NBM	Evidence based medicine	Narrative based medicine
各論 vs. 総論	各論	総論

つまり、患者は「お腹が痛い」、「頭が痛い」、「めまいがする」と言った症候のプラカードをぶら提げて受診してくるのであり、大学病院の様に予め診断がついているのとは違うこと、しかも、症状さえとればさほど診断には拘っていないということを気が付かせております。ただし、プロフェッショナルとしては最大限に診断することに努めること。その他にも、治療が判断を兼ねることがあること、First touch に比べると second touch, third touch が有利なので、その事を知ったうえで研修することなどなど、伝えたいメッセージは無数にあります。

現在、高齢化率の全国平均が25%ある中、久万高原町の高齢化率は44%であります。しかし、2035年には大都会東京でさえも30%を超え、高齢化社会はもはや全ての医師にとって他人事ではなくなるのです。この現状を理解したうえで実習に臨むように実習生には伝え、将来を見据えた「最先端の医療」が展開されていることが伝わったのではないかと思います。

これまで同様、地域医療における実習では、経験・体験が中心になる様に心がけております。診療所実習、訪問診療、訪問看護、介護実習、リハビリ実習、採血実習ほか、生理検査室での実習を取り入れました。生理学実習以来のEGG実習および呼吸機能検査実習を行ってもらいまし

た。恒例となっております病棟患者全員の血圧測定を今年も担当してもらいました。とかく専門性の高い疾患の集中しやすい大学病院とは異なり、**common disease** にしっかりと対応できる医師の育成の場として地域医療の果たす役割が大きいことを意識しました。

	午前	午後
月曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・外来見学 (OSCE) ・院内紹介 ・病棟患者紹介 (内科 2 例、外科 1 例) 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定高齢者施策 ・外来実践 (問診、OSCE) ・プライマリ・ケア学習道場 ・病棟回診
火曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・検査見学・実習 (エコー・内視鏡) ・採血練習 ・介護講習 	<ul style="list-style-type: none"> ・生理検査室 ・リハビリ室 ・放射線部 ・病棟回診
水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護 ・病棟回診
木曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・父二峰診療所 1 名 ・訪問診療 2 名 ・病棟回診
金曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・外来実践 (問診、OSCE、カルテ記入) ・検査室 (採血実践本番・測定) ・プライマリ・ケア学習道場 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来実践 (問診、OSCE、カルテ記入、結果説明) ・プライマリ・ケア学習道場 ・病棟回診・まとめ

また、臨床推論を含めた **feedback** 形式の勉強会および座学ではありますが **common disease** に関するスライド発表を継続しております。と言いましても、前者は昨今流行りのあてもの式の臨床推論ではなく、実際に診察した患者さんの診療内容を振り返る時間を十分にとる様にしたことです。ほとんどが、**common disease** に関する **discussion** であり、卒業試験や国家試験にも対応できる内容です。今日やらないことは明日はしない可能性は高いため、ホワイトボードを用い、その日の内容はその日のうちに理解してもらうことをモットーに実習生とともに取り組んでおります。高齢者に対するマナー、症候に応じてめまぐるしく変化する鑑別疾患のリストアップ、検査成績の読み方、ガイドラインのおさらい、最新の研究内容など、iPad を駆使しながら多岐に亘る学習ができていないのではないかと思います。

全体としてみると今年度も大きな問題がなく活動できました。久万高原町立病院のスタッフおよび関連施設、行政の関係者の方々にはこの場を借りて感謝申し上げます。一方で様々な課題も浮き彫りになってきており、学内・外で御迷惑をお掛けすることもあるとは思いますが、引き続き御指導のほどよろしく申し上げます。

地域医療学講座でのこの一年

地域医療学講座 助教 二宮 大輔

平成 26 年 4 月から本講座助教として西予サテライトセンターに赴任しております二宮大輔と申します。私は平成 16 年自治医科大学卒で、愛媛県立中央病院での初期研修を終えた後に自治医大の卒後義務年限として、西予市立野村病院、久万高原町立病院、市立八幡浜総合病院に赴任し、それぞれ一般内科医として勤務しておりました。平成 25 年度は川本教授の勧めもあり自治医科大学地域医療学センターへの 1 年間の研修として、病棟・外来業務と一部研究に携わらせて頂きました。

愛媛県内での勤務地はいずれも大変に思い出が深く、野村病院へは学生実習・初期研修も含めて今回で 7 回目の赴任であり、久万高原町では本講座のサテライトセンターの立ち上げにも立ち会わせて頂き、当時の准教授でありました阿部先生のご指導を頂きながら学生実習のお手伝いもさせて頂きました。また、八幡浜赴任時には地域救急医療学講座のサテライトセンターの立ち上げもあり、本学の地域医療学系講座とは深い縁を感じずにはられません。

平成 26 年度からは正式に本講座の一員として、西予サテライトセンターがあります西予市立野村病院にて一般内科医として勤務する傍らで、学生実習指導・初期研修医教育・大学での講義などを受け持たせて頂いており、大変に貴重な経験をさせて頂きました。特に、医学部 3 年生の講義では地域医療をなるべく体感できるような、もしくは 5 年生での地域医療実習に向けて学生の学びのきっかけになるような講義を心掛けております。

これからの地域医療は僻地医療のみならず都市部での高齢化進行に伴って日本全体の喫緊の課題として、専攻診療科に限らず全ての学生に理解と問題意識を持ってもらいたいと考えています。また、僻地での地域医療についても個人の犠牲の上に成り立つものではなく、今後も持続可能なシステムとしての医療と為りえるためにもその裾野を広げられるように学生教育に取り組みたいと思います。

今までの赴任先での経験とこれまでご指導頂いた先生方とのつながりを活用して、愛媛県の地域医療の発展に微力ながら尽力したいと考えておりますので、今後のご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

学外講師

家庭によるタバコフリー活動（平成 26 年 10 月 16 日、東温市）

かとう内科クリニック 院長 加藤正隆 先生

たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、その害と影響の大きさについて、その発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすく講演していただきました。全身を禁煙グッズで包み講演する姿に先生の意気込みが感じられます。



高齢者医療と福祉—求められる医師像—（平成 26 年 10 月 30 日、東温市）

綾川町国民保健陶病院 院長 大原昌樹 先生

大原昌樹先生が地域の第一線で取り組んでいる多職種連携のなかでの地域をケアする取り組みについて具体的な事例を交えて教えていただきました。今回の講演では、地域で活躍する様々な職種、医師、看護師、ケアマネジャー、サービス業者、住民、業者についてその役割も説明して頂きました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性。老健や特養施設の役割。在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんの喜びについてなど幅広いお話でした。



地域医療における病院運営と高齢者ケア（平成 26 年 11 月 20 日、東温市）

済生会松山病院 院長 宮岡弘明 先生

済生会松山病院での幅広い取り組みについてご紹介いただきました。高齢化が進むなか、多職種を巻き込んだチーム医療について多くの事例を交えたお話をしていただきました。高齢者の死因として最も多い肺炎、特に誤嚥下性肺炎についての多職種での取り組みは、目を見張るものがあります。



離島医療についても定期的に取り組み、離島：釣島や八幡浜市大島での健康教室活動、宇和島市嘉島での出張診療をご紹介いただきました。救急医療についても松山の輪番制の中で済生会松山病院は8日に1回の救急担当を担当し、地域貢献としては、地域での啓蒙活動を実施し、予防への取り組み（生活習慣病やスポーツ障害予防）を実施されているということです。地域医療を担う医師養成として、**generalist**の**mind**を持った**specialist**を養成する取り組み。**ER**中心の病院（忙しすぎる）とじっくり学ぶ病院（救急対応が今ひとつ）とのメリットを生かしたローター方式についてご紹介いただきました。現在は後期研修医が残り、屋根瓦方式の研修方式が可能になっているのは素晴らしい状況と思われます。

地域医療における心のケア（平成26年11月27日、東温市）

愛媛県立中央病院総合研修センター長 山岡傅一朗 先生

今回も、中島産のミカンを用いて、代表の学生が問診を行った。病期の流れの中で過去から未来へ、問診と観察、さらには推察の重要性について、山岡先生ならではのユニークな講義でした。また、日本における鍼灸や東洋医学の歴史を交えながら、さらには鍼の使用も実習しながら、鍼の目になったつもりで刺入を計る技を伝授いただきました。写真のごとく学生は、全員が中央に集め



られ、多少緊張感のある雰囲気での楽しい授業でした。先生のお話はどれもが歴史を交えた味わいと重みのある内容で、患者さんに対する場合には必ず余裕を持って、相手に不安を与えないことの重要性についてもわかりやすく解説されました。

地域医療教育活動

第1回医学生のためのプライマリ・ケア（平成26年2月15日、東温市）道場

地域医療講座主催による医学生のためのプライマリ・ケア道場を開催しました。臨床実習2クール目にて久万と野村病院での実習を選択された学生さんを中心に2年生から卒後1年目の研修医を含め、多くの参加者のもとワークショップが行われました。地域医療学の熊木天児准教授の司会により、学生が米国内科学会編集の *In the Clinic* にまとめられた疾患に関してPPTを活用して解りやすく要約し、疾患に関する最近のエビデンスと治療法の説明を行いました。耳鼻科の藤原崇志先生からは文献検索の方法、論文の読み方についてのノウハウが伝授されました。学生によるロールプレイも行われ、さらには懇親会での交流と楽しい会でした。



地域で「生きて逝く」を考える（平成26年5月21日、西予市）

香川県国保陶病院院長：大原昌樹先生をお迎えして終末期医療の在り方、地域医療を行う我々が今後どのような視点で取り組むべきか、地域への働きかけなどについて詳しくお話頂きました。盛んに行われてきた胃瘻増設術の是非についてのアンケートも紹介され、医療者側と患者側のニーズと理解のずれ、症例によっては必要な例もあることなどをわかりやすく解説いただきました。



EBM Workshop Ehime 2014（平成26年6月21日～22日、東温市）

愛媛大学医学部の有志の運営により、東京北医療センター総合診療科の南郷栄秀先生を迎えてEBMの使い方に関するワークショップを開催しました。EBM導入のレクチャーに始まり、文献検索の方法、論文の正しい読み方に関するワークショップが行われました。岡山や広島から参加された薬剤師さんや医学部1年生にもわかりやすいレクチャーでした。翌日には野村町を舞台としたモバイルCTについてのワークショップもあり、最後まで盛況に行われました。



第14回愛媛プライマリ・ケア研究会（平成26年7月12日、松山市）

一般演題9題は、学生や研修医、現場で活躍されている在宅医療医などからの夏の暑さを吹き飛ばすような熱のもった内容でした。特別講演の佐藤 勝先生は、超高齢会に向けて叫ばれ始めた地域包括ケアをどこよりも早く取り入れられ、保健・医療・福祉の輪の中で行政や地域住民を巻き込んだ地域包括ケアを実践されており、「地域をケアする」取組みについて熱のこもったご講演をいただきました。



地域医療の魅力を知る バスツアー（平成26年7月20日、西予市）

学生主催のワークショップが西予市野村町で開催されました。病棟実習、往診の体験、多職種連携に関する各職種の役割について学んだ後、地域医療の魅力と題して各グループで話し合い意見を共有しました。その後、地元のミルクを使った料理を食べ楽しい一日を過ごしました。



診療船「済生丸」乗船ツアー（平成26年8月29日、大洲市）

学生の離島実習を兼ねて済生丸診療船に乗船し、大洲市青島に向かった。診療船というだけあってあらゆる設備が整っている。診察室、心電図、超音波、X線装置など。青島は長浜町沖の瀬戸内海に浮かぶ小島である。船が港に着くと待ちかねた住民10名が集まってきた。猫の多い島と聞いていたがたくさんの猫も出迎えてくれた。担当者が手際よく、検診を行い、昼ごろには終了した。離島医療にはこのような診療船の存在は貴重である。



第2回えひめ多職種連携ワークショップ（平成26年10月5日、松山市）

今回の多職種連携ワークショップは、愛媛大学医学部5年生の上本明日香さんと松山大学薬学部4年清の澤本篤志さんの企画・運営により開催されました。ワークショップは、ちびまる子ちゃんの家族の一員になることから始まりました。10年先のこと、米蔵さんが脳梗塞になるという出来事をきっかけに家族のメンバーがどのような役割を果たせるのか、メンバーになったつもりで演技をしつつ真剣に考えました。次いで、多職種で患者を診ていく場合を想



定し、将来自分がなりうる職種以外になって考えました。各職種の役割を深めることになり、最後に自分が将来なりうる立場になって考えました。一連の作業を通して、多職種連携とはどのようなことかを体験できました。重要なことは、患者さんの希望をかなえるために、各職種の立場から何ができるのか、話し合いを通じて各職種の役割を理解し、互いに学び、また任せることも重要だということです。非常に有意義なワークショップでした。糖尿病に関する貴重な特別講演をいただきました宮岡弘明先生にもお礼申し上げます。



第7回全国シンポジウム

「地域推薦卒医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」に参加して

地域医療学講座 助教 二宮 大輔

日 時：2015年2月20日(金)13:30～16:30

会 場：千代田区丸の内二丁目7番2号

JPタワーホール&カンファレンス

主 催：鹿児島大学病院地域医療支援センター

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科地域医療学分野／

離島へき地医療人材育成センター

出席者：地域推薦卒医学生に関する事象に携わる自治体・大学・医療機関関係者

テーマ：～地域推薦卒医学生・医師の教育・キャリア形成に

地域医療支援センターが果たす役割～

内 容：13：30 開会挨拶

13：35 開催趣旨説明（鹿児島大学病院 地域医療支援センター 大脇哲洋）

～情報提供～

13：45 岡山県地域医療支援センター岡山大学支部 岩瀬敏秀

14：10 しまね地域医療支援センター 勝部琢治

14：35 栃木県保健福祉部医療政策課とちぎ地域医療支援センター 渡辺晃紀

15：00 三重大学大学院医学系研究科肝胆膵・移植外科

医学・看護教育センター

櫻井洋至

15：40 総合討論

16：30 閉会

特記事項：

岩瀬先生から岡山県での取り組みとして、地域卒卒業医師のキャリアアップを検討するワークショップを開催した際に研修病院・地域医療機関・各自治体などの関係者とともに地域卒の学生自身も参加しているという紹介がありました。また、それとは別に「地域医療部会」を毎月開催し、県内中小病院長、大学関係者、行政関係者に加えて弁護士や県議会議員など毎回40～60名ほどの参加者がいて大変盛況であるとのことでした。内容としては、その時々
の要検討事案についての意見交換や勉強会であったりしますが、関係者が顔を合わせて顔なじみになっておくことの利点を述べられていました。

勝部先生からは、しまね地域医療支援センターが全国でも類をみない一般社団法人であることでフレキシブルな活動がしやすいという紹介がありました。また、地域卒学生の6年生以降から「私のキャリアプラン」として学生自身が思う卒後9年間の勤務希望を毎年提出し

てもらおうようにしており、学生の希望の確認と学生自身に将来像を認識してもらおう狙いがあるとのことでした。

渡辺先生からの報告として、栃木県では地域医療支援センターが栃木県庁にあるためキャリア支援のためのキャリアコーディネーターとデザイナーが自治医科大学と独協医科大学の医師がそれぞれ担当しているとのことでした。また、地域枠の半数程度は女性医師でありその支援の必要性を訴えられていましたが、その中で女性医師の産休・育休については地域枠卒業生の派遣人数のピークをシフトすることで急激な増加後の減少を緩和する効果があるのではという見解を提案されていました。

桜井先生からは、三重県でも他県同様に新専門医制度下での地域枠卒業生のキャリアアップ支援について頭を悩ませており、新専門医制度の概要が固まるのを待っているとの報告がありました。その際に、今後は大学や地域の病院に派遣をするのではなく各プログラムに派遣するようになるのではないかという想定があり、その場合にプログラムの乱立が地域枠以外の一般医師の地域偏在を助長するのではないかという危惧を呈していました。

その後の総合討論では活発な意見交換が為されていました。特筆すべきは、地域枠卒業生のアウトカムを何に設定するかという問題提起でした。考察も交えながら会全体の中での意見をまとめますと、①卒後に県内の医療機関で義務として勤務してもらう、②義務中に県内の支援が必要な地域の医療機関で勤務してもらう、③義務明け後も県内の医療機関に勤務してもらう、④義務明け後も（将来的にでも）県内の支援が必要な地域の医療機関で勤務してもらう、⑤義務明け後の将来的にでも指導医として支援が必要な地域の医療機関で勤務しながら若手の地域枠卒業生を受け入れてもらう、という段階的な目標設定ができるとのことでした。その目標をどこに定めるかによってキャリアアップ支援の内容も変わるとの意見があり、専門医取得についても段階的な目標をより上に押し上げるための手段であって必ずしも目的ではないと思いました。

第7回 全国シンポジウム
「地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」

～地域推薦枠医学生・医師の教育・キャリア形成に地域医療支援センターが果たす役割～

シンポジスト

岡山県地域医療支援センター岡山大学支部 助教
岩瀬 敏秀 先生

一般社団法人
しまね地域医療支援センター 主任主事
勝部 琢治 先生

栃木県保健福祉部医療政策課
とちぎ地域医療支援センター 専任医師
渡辺 晃紀 先生

三重大学大学院医学系研究科肝臓科・移植外科
医学・看護教育センター 准教授
桜井 洋至 先生

厚生労働省医政局地域医療計画課
医師確保等地域医療対策室 室長
佐々木 昌弘 先生

基調講演 「医療法に位置付けられた地域医療支援センターへの期待」
厚生労働省医政局地域医療計画課
医師確保等地域医療対策室 室長
佐々木 昌弘 先生

司会
鹿児島大学大学院医学部総合研究科
鹿児島県地域医療支援センターセンター長
国際看護医療学分野 教授
嶽崎 俊郎

鹿児島県保健福祉部 参事
地域医療整備課 課長：医師
中俣 和幸 先生



皆で考えてみませんか？

日時 平成 27年 2月 20日 (金) 13:30～16:30 **参加無料**

会場 東京都千代田区丸の内2丁目7番2号
JPタワー ホール&カンファレンス (東京駅丸の内南口前、JPタワー・KITTE4 階)

対象 地域医療支援センター関係者など
地域推薦枠医学生に関する事象に携わる自治体・大学・学生・医療機関
並びに地域医療教育に興味のある方々

※当日は Skype による中継を行う予定です。詳しくはHPをご覧ください。

主 催：鹿児島大学病院 地域医療支援センター
鹿児島大学大学院医学部総合研究科 地域医療学分野 / 鹿児島県地域医療支援センター
お問合せ：鹿児島大学大学院医学部総合研究科 鹿児島県地域医療支援センター TEL:099-275-6888 FAX:099-275-6899
mail: ecdr-office@umim.ac.jp
H P : http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/ecdrf

第14回愛媛プライマリ・ケア研究会

愛媛大学大学院社会医学コースフォーラム

【日 時】平成26年7月12日(土) 16時00分～

【場 所】リジェール松山 8F 「クリスタルホール」

松山市南堀端2-3 (JA愛媛8F) TEL 089-948-5631

【開会挨拶】かとうクリニック 加藤 正隆 先生

【一般演題】

<臨床研究> 16:00-16:45 (発表10分、討論5分)

座長：済生会今治病院 山口朋孝 先生

1. 中高年の地域在住女性を対象とした運動療法に伴う中性脂肪と尿酸の低下は
インスリン抵抗性の改善に相乗的に関係する—Nomura study いきいき健康大学—
1) 西予市立野村病院内科、2) 愛媛大学医学部老年・神経・総合内科学、
3) 愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学
加藤丈陽 1) 2)、川本龍一 1) 3)、楠木 智 1) 3)、阿部雅則 3)、小原克彦 2)、
三木哲郎 2)
 2. 総合診療医に求められる呼吸器診療能力の検討
—当院総合診療科年間初診患者約5000例の検討から—
愛媛県立中央病院 総合診療科
村上晃司、大西慶、田中徹也、原和也、兵頭和樹、岡田将誉、本間義人、清水元気、
明坂和幸、杉山圭三、玉木みずね、山岡傳一郎、北出公洋
 3. 当院での誤嚥性肺炎診療の現状
済生会松山病院 臨床研修センター 内科
國分勝仁、村上英広、木下智文、土井啓介、有友佳奈子、白石佳奈、砂金光太郎、
北畑翔吾、宮本裕也、青野通子、中口博允、稲田暢、堀和子、梅岡二美、沖田俊司、
宮岡弘明
- <症例報告> 16:45-17:12 (発表6分、討論3分)
- 座長：愛媛県立中央病院 村上晃司 先生
4. 呼吸筋麻痺を呈した低K性周期性四肢麻痺の1例
愛媛県立中央病院 1) 神経内科 2) 救急診療部 3) 糖尿病内分泌代謝科
二宮怜子 1)、近藤総一 1)、奥田真也 1)、松本雄志 1)、鴨川賢二 1)、富田仁美 1)、
岡本憲省 1)、奥田文悟 1)、小田原一哉 2)、上田晃久 3)
 5. ニューモシスチス肺炎を契機に後天性免疫不全症候群が判明した一例
愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学
長谷川 陽一

6. 意識障害で来院した脳底動脈先端症候群の1例

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学

二宮大輔

<地域医療活動・学生活動> 17:12-17:45 (学生活動発表6分、討論3分)

座長：済生会松山病院 宮岡 弘明 先生

7. CLE：有志勉強会グループの活動報告

愛媛大学医学部医学科4年

渡部遥

8. 医科学研究：新一年生の活動報告

愛媛大学医学部医学科1年

原諒真、原田克己、本田僚佑、柳原千秋、上野竜太郎

9. 愛南町における当院の訪問診療の取り組み

松本クリニック

松本毅

【事務連絡】 17:45～17:50 愛媛大学大学院地域医療学 准教授 熊木 天児 先生

【特別講演】 18:00～19:30

座長：愛媛大学大学院地域医療学 教授 川本 龍一 先生

「地域包括ケアからまちづくり—地域医療はおもしろい」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座 教授

佐藤 勝 先生

顧問

恩地 森一 (済生会今治医療福祉センター)

日浅 陽一 (愛媛大学大学院 消化器・内分泌・代謝内科学)

代表世話人

川本 龍一 (愛媛大学大学院 地域医療学)

世話人

加藤 正隆 (かとうクリニック)

杉山 圭三 (愛媛県立中央病院)

高原 完祐 (愛媛十全医療学院附属病院)

松浦 文三 (愛媛大学大学院 地域生活習慣病・内分泌学)

宮岡 弘明 (済生会松山病院)

村上 晃司 (愛媛県立中央病院)

山口 朋孝 (済生会今治病院)

山下 善正 (済生会今治第二病院)

事務局

熊木 天児 (愛媛大学大学院 地域医療学)

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 TEL 089-960-5308 (地域医療学講座内)

愛媛県主催医学生サマーセミナー

【日 時】平成26年8月23日(土) 13時00分～

【場 所】愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター 1階講義室

13:00～13:05 開会挨拶 医療対策課長

13:05～13:35 司会 医療対策課 主幹 河瀬 利文

司会 愛媛大学医学部地域医療支援センター 高橋 敏明

「後輩に向けて 地域医療に対する思い(仮称)」

愛媛大学医学部地域医療支援センター

長谷川 陽一先生

愛媛大学医学部地域医療学講座

二宮 大輔 先生

13:35～13:40 ワークショップの進め方の説明

進行 愛媛大学地域医療学講座教授 川本 龍一

13:40～15:40 ワークショップ

ワークショップ (120分)

《テーマ》

「愛媛で地域医療をするために。

ーあなたはどのような医師になりますか?ー」

各班の課題

- ・地域医療における総合診療医と専門医の在り方
- ・地域におけるかかりつけ医の在り方
- ・地域医療における急性期から在宅医療までの在り方
- ・先進的な地域医療の在り方
- ・その他、何でも

進行：愛媛大学医学部地域医療学講座 川本 龍一

ファシリテーター：

愛媛十全医療学院附属病院	高原 完祐	(一班)
愛媛県立中央病院	杉山 圭三	(二班)
愛媛県立中央病院	村上 晃司	(三班)
愛媛大学医学部地域医療学講座	二宮 大輔	(四班)
愛媛大学医学部地域医療学講座	熊木 天児	(五班)
愛媛大学医学部地域医療支援センター	長谷川 陽一	(一班)
愛媛大学医学部地域医療支援センター	高橋 敏明	(二班)
愛媛大学医学部地域医療支援センター	高田 清式	(三班)

愛媛県職員



地域医療学専門研修案内

地 域 医 療 学

－「地域を舞台に学ぶ」－

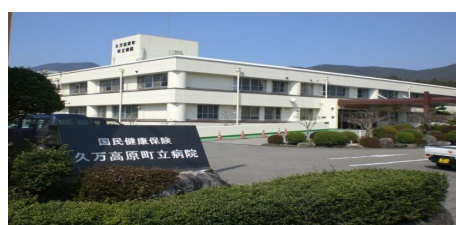
①講座の紹介

地域医療学講座は、平成 21 年 1 月 1 日、地域での教育・研究・診療を目的として愛媛県からの寄附講座として設立され、現在、西予市立野村病院および久万高原町立病院に講座の地域サテライトセンターを設け活動しています。地域における高齢化やそれに伴う疾病の複雑化、要介護者の増加、生活習慣病の増加等、国民を取り巻く健康問題は近年益々多様化しており、このような現状のなか地域における住民のニーズには疾病の診療にとどまらず、家族・職場・地域を視野に入れた幅広い医療活動が強く求められています。本講座では、「地域に生き」、「地域で働く」医師を「地域を舞台に育てる」を合言葉に、地域に根付いた教育と研究、医療支援活動を行い、総合医育成を目指しています。

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター



西予市立野村病院




久万高原町立病院

②地域サテライトセンターの特徴と研修プログラム

1. 主な研修場所は、地域における救急を含む一次、二次医療を担当する一般病院であり、紹介に片寄ることなく、初診を含め広く外来受診、入院を受け入れており、救急を含む **common disease** や **common problem** を十分に経験する機会を保障しています。
2. 臓器別専門病棟でなく混合病棟での研修です。
3. 指導医も臓器別専門医として指導をするのではなく、総合医として各科研修期間を一貫して指導にあたります。患者の諸問題から出発して学習をすすめる問題指向型学習 **Problem-based Learning** を行いやすい環境を保障しています。
4. 研修医自身のプログラム実践への関与が可能です。
5. いずれの研修病院も地域医療を担ってきた歴史をもち、往診活動、保健予防活動などを展開しています。病棟医療だけでなく様々なフィールドにおける研修が可能であり、地域の保健・医療・福祉サービスの理解など、プライマリ・ケアの視点を身につけるのに適した環境を保障しています。
6. 医師カンファレンスだけでなく各種コメディカルスタッフの参加するケースカンファレンスを定期的に行なっており、各種スタッフと協力して医療を行うチーム医療の姿勢を身につけるのに適した環境を保障しています。
7. 学習環境の保証、教育法の工夫として、研修医が文献や各種二次資料の検索を行なえるコンピューターを配備し、問題解決のための自己学習や **EBM** を実践できる環境を保障しています。
8. より効果的な教育方法の開発に取り組み、マニュアル化し、研修に取り入れています。
9. 研修内容は研修医の到達度に応じてステップアップしていくシステムをとっており、患者にとって安全で、かつ研修医も安心して研修が受けられる環境を保障しています。
10. 精神的、身体的に健康で、経済的にも余裕をもって研修に専念できるように、適切な休暇、給料を保障しています。
11. 指導医の各種研修への参加保障など指導医養成 **Faculty Development** を重視しています。

12. 指導医が研修指導にあたる時間を確保するとともに、屋根瓦方式による指導体制をとることで、研修医が十分な指導を受けられる環境を保障しています。

研修の具体例

年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
研修内容	初期臨床研修 (2年)		内科中心の研修 (1~2年)		地域医療 (1~2年)		自由研修 (1~4年)		
研修施設	臨床研修病院		大・中規模病院		地域中核病院・ 診療所		希望医療機関		
資格			日本内科学会 認定内科医取得				日本内科学会総合内科専門医、 日本プライマリ・ケア連合学会 認定・家庭医療専門医等 総合関連専門医および 各種専門医取得		

※当プログラムでは、臨床研修を修了した3年目の医師向け「**地域医療・総合医後期研修コース**」、
「**家庭医養成愛プログラム**」と臨床経験5年以降の医師向け「**地域医療生涯研修コース**」を用意
しています。「地域医療」での研修を希望して、診療所に1年単位で勤務することが難しい場合
には、指導医がいる診療所において、週1~2回程度代診する形で診療所を経験することも可能。

※研修内容は、愛媛大学医学部総合臨床研修センターの支援のもと、本コース参加者と研修医療機
関との話し合いで決定します。また、定期的に本コース参加医療機関指導医と研修参加者の研修
会を開催し、研修の振り返りと研修内容の充実を計ります。

③経験目標

当プログラムを修了した医師は、地域住民と患者のニーズに的確に応え、合理的で温かな信頼
される保健医療サービスを自ら提供できるようになり、医療・保健・福祉までを含めた幅広い分
野の人々と協働できることを目標としています。

④指導医

- ・川本龍一（教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、
日本老年医学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指
導医、日本消化器内視鏡学会専門医、米国内科学会上級会員（Fellow））
- ・熊木天児（准教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会認定医・指導
医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、厚
生労働省指定・卒後臨床研修指導医）

⑤研修に関する行事（西予市地域サテライトセンターの例）

月曜日：抄録会、火曜日：病棟カンファレンス・褥瘡回診、水曜日：レ線カンファレンス・健康
教室、木曜日：訪問カンファレンス、金曜日：病棟カンファレンス・総回診

⑥研修終了後について

個人の希望に応じて愛媛大学の関連病院で勤務あるいは大学院進学

⑦関連病院との連携

臨床コース：希望により、県内の教育病院で研修を積み、日本プライマリ・ケア連合学会、日
本内科学会、日本老年医学会等の認定医取得後、さらに専門医取得を計ります。

⑧専門研修の問い合わせ先

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53（西予市立野村病院）

初期研修・後期研修

昨年と同様に地域医療学講座のメンバーが外来診療や当直などを通してサテライトセンターで診療支援を行っています。サテライト化により大学よりの研修医が徐々にではありますが増えています。

- 初期臨床研修 2年目の地域医療研修

西予市地域サテライトセンター：愛媛大学病院 2名、済生会松山病院 1名、松山赤十字病院 2名、松山市民病院 2名、愛媛県立中央病院 1名、自治医科大学病院 4名

- 後期臨床研修（家庭医養成愛プログラム所属）3年目の地域医療研修

西予市サテライトセンター：高知大学医学部卒業 1名

- 後期臨床研修（家庭医養成愛プログラム所属）4年目の地域医療研修

西予市地域サテライトセンター：愛媛大学医学部卒業 1名

久万高原地域サテライトセンター：愛媛大学医学部卒業 1名

初期臨床研修 2年目の地域医療研修の感想

沼田研修医（2014/2/3～28）

短い期間でしたが、先生や看護師のみなさんだけでなくリハビリ、検査室や事務の方々など多くの方にお世話になり、毎日、温かい気持ちで研修できました。患者さんとの関わり方や、退院までの方針を決めるときなど、自分の未熟さを実感する機会が多く、今後、内科に進むうえで非常に良い経験ができました。患者さんの話をしっかり聞くことのできる医師を目指してがんばります。ありがとうございました。

横山研修医（2014/4/14～5/7）

1ヶ月間、先生方をはじめ、スタッフのみなさんに助けていただき、充実した研修を送ることができました。訪問診療や診療所での診察を最も経験したいと考えていたため、毎回、往診に同行させていただき、加えて、乳児健診なども経験し目標は達成できたと思います。同時に自分の勉強不足、経験不足を実感し、大学に戻りもっと積極的に研修したいという気持ちになりました。ありがとうございました。

中村研修医（2014/4/1～5/30）

予想していた以上にたくさんの経験をすることができ、充実した研修でした。ただ疾患を治療するだけでなく、その後、患者さんがどのように生活し、病院での受診あるいは往診を継続していくのかということまで考えて方針を立てる視点を学びました。当初の目的のひとつが、「入院から退院までの方針決定」を学びたいということでしたが、その中には、患者さんの生活背景が大きく関わってくるのだということに気づきました。これから身につけていかなければならない知識や考え方が、幅広い分野にわたってあるということも痛感しました。野村病院で研修できて本当によかったです。

大野研修医（2014/6/2～30）

大変勉強になりました。プライマリ・ケア医としての、優秀さ、謙虚さ、医療に対する態度を知れただけでも来た甲斐

がありました。将来、先生方に負けないような医師になれるようがんばりたいと思います。1ヶ月間、ありがとうございました。

寒川研修医（2014/7/1～31）

1ヶ月間、お世話になりました。在宅カンファレンス、ケアカンファレンスの見学・発表をさせていただき、患者さんの退院後の施設との連携について学ぶことができました。外来や検査も上級医の先生に相談できる状況で任せていただき、有意義な研修になりました。スタッフの皆さんの顔を覚え、親しくなったところで研修終了なのが残念です。みなさま、ありがとうございました。

黒川研修医（2014/8/1～31）

野村町の患者さん方、病院のスタッフの方々にあたたかく迎えていただき、1ヶ月間、充実した研修を行うことができました。皆さんから学ばせていただいたことが活かせるように今後もがんばりたいと思います。ありがとうございました！

原田研修医（2014/9/8～10/1）

健診や往診、診療所など、地域ならではの現場に行けて良かったです。短い期間でしたがお世話になりました。ありがとうございました。

國分研修医（2014/10/6～18）

学生時代に実習で来たときとは違い、研修医として動いてみると、先生方の大変さがよくわかりました。専門ではない検査や今後の治療方針を立てる先生方を見て、総合力がないと働けないと感じました。今後は、先生方に負けないよう、自分も専門分野だけでなく総合力も身につけていきたいと思います。2週間ととても短い期間でしたが、緊張感を持って、日々、研修できました。ありがとうございました。

栗原研修医（2014/10/1～31）

毎日充実していて、1カ月があっという間でした。院外にも積極的に行かせてもらい、とてもやりがいを感じる事ができ、病院と施設や診療所との繋がりも学びました。スタッフの皆さんだけでなく、患者さんも温かい方ばかりで、とても居心地よく働くことができました。短い期間でしたが、野村町が大好きになりました。また機会があれば来たいと思います。本当にお世話になりました。今後、この研修で得たことを活かしてがんばります。ありがとうございました。

滝研修医（2014/11/4～26）

一ヶ月、お世話になりました。地域に密着した病院での研修。往診などでいろいろな地区へ行き、現地で様々な状況を知ることができ、新しい医療の視点を得ることができました。終末期・在宅医療・老健施設等、とても勉強になりました。また、乙亥大相撲を見ることができ思い出になりました。短い間でしたがありがとうございました！

笠井研修医、伊藤研修医（2014/12/1～26）

1ヶ月間、振り返ればあっという間でした。非常に密度の濃い充実した時間を過ごすことができ、初期研修の総復習をさせていただいた気分です。今後の医師人生において忘れられない素晴らしい経験をさせていただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。（笠井）

尊敬できるスタッフの方々に恵まれ、有意義な研修を送ることができました。希望に応じ研修を組んで頂き、十分に目標は達成できました。今後、学んだことを還元できるよう勤めたいと思います。（伊藤）

地域に生き 地域で働く医師を 地域を舞台に育てる

後期研修医との研修 振り返り Q&A

長谷川 陽一

2011 年高知大学医学部卒業

2013 年佐久総合病院 臨床研修修了

2013 年愛媛大学地域医療学講座 後期研修医

(1 年間松山市民病院で内科ローテート、小児科研修を経て、現在西予市立野村病院)

Q ずばり、地域医療学講座の総合診療・家庭医プログラムで研修を開始してどうですか。

現在は西予市立野村病院で総合診療医として勤務をしていますが、本当に満足いく研修をできていると思います。胃潰瘍、糖尿病、慢性心不全急性増悪、心房細動頻脈発作、肺炎、脳梗塞などなど、いわゆる **common disease** については、ほとんど網羅できていると感じています。自分が受け持っている入院患者は平均すると 15~20 人ぐらいでしょうか。外来・病棟・救急車対応・当直・訪問診療・診療所・小児検診・施設回診・検査（心エコー、腹部エコー、消化管内視鏡検査）などバランス良く研修内容も組まれているので、いわゆる総合診療・家庭医療を学ぶ上で必要な環境はかなり揃っていると思います。

これは、初期研修を終了してどこの診療科に行くかまだ決めきれない人や専門診療科に進む前に、総合診療・家庭医療の研修を受けるというやり方は、自分の診療の幅を広げることができるという点でもとても良い選択になるんじゃないかと感じてます。現に初期研修医の先生たちと話をしていて、そういうニーズがあることを感じています。

また、これは野村病院の話になりますが、毎週常に医学生・研修医が出入りして指導をする環境があるので、教えることで自分自身が学ぶことができます。EBM についても、愛媛大学医学部の情報検索ツールとつながっていて **up to date** や医中誌などの情報検索システムが構築されているので、EBM を実践する環境は整っています。

愛媛だとまだ総合診療医を志向する人がそれほど多くないので、ある意味パイオニアになれる（笑）というか、自分の研修の希望についても非常にフレキシブルに組み込んでオーダーメイドの研修を行うことができます。

Q 研修スケジュールについてはどのようになっていますか。

プライマリ・ケア連合学会の基準に合わせて、指導医と相談の上決めることとなります。そのうえで、愛媛県内の研修病院との話し合いで正式に決定します。

【自分の場合】

3年次	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
松山市民病院	循環器	糖尿病内科	消化器内科	小児科・内科
4年次	4～6月	10～12月	1～3月	4～6月
西予市立野村病院	総合診療科	総合診療科	総合診療科	総合診療科

※5年次については、4年次の段階で、改めて指導医の川本先生と相談する予定です。

Q 逆に困った点や改善点などあれば教えてください

やはり、四国全体で総合診療・家庭医プログラムに進んでいる同僚がまだまだ少ないので家庭医療ならではの研修で悩む点と思います。他には、具体的にはポートフォリオの作成や研修中のフィードバックの部分についてはまだ弱い部分があると感じています。でも、プライマリ・ケア連合学会四国支部会で後期研修ポートフォリオ発表会が開催され各県の指導医が改善点をフィードバックしてくれたり、2015年3月には松山で後期研修医のポートフォリオ発表会、研修交流会を行うなどすることで、少しずつ縦横のつながりができてきているように思います。情報については、インターネット、書籍などでも得ることができるので、あとはノウハウの蓄積、共有ができるような環境ができてくると問題ないと感じています。

Q 研修でとることができる資格について

- ・内科学会 内科認定医
- ・プライマリ・ケア連合学会 家庭医療専門医（新専門医制度での総合診療医）
- ・日本糖尿病学会 専門医
- ・日本老年医学会 専門医
- ・超音波学会 専門医

これらが取得可能で、僕自身は後期研修2年目の7月に内科認定医試験を受験して資格を取得できました。家庭医療専門医研修修了後の専門医試験に提出できるようポートフォリオも現在指導医と一緒に作成しております。

平成 26 年度 地域医療学講義日程

前期課程 場所：臨床第 2 講義室

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
5 月 29 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「家庭医としての役割」	地域医療学	川 本
6 月 5 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「患者さんの視点」	地域医療学	熊 木
6 月 12 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「ライフサイクルと健康」	地域医療学	二 宮
6 月 19 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「地域医療における解釈モデルの活用」	地域医療学	川 本
6 月 26 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「総合医と専門医の役割」	地域医療学	熊 木
7 月 3 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「EBM と NBM」	地域医療学	川 本
7 月 10 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「医療判断学」	地域医療学	二 宮
7 月 17 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「臨床判断の基礎」	地域医療学	熊 木
7 月 24 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「地域に住んで実践する地域医療」	地域医療学	川 本

後期課程 場所：臨床第 2 講義室

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
10 月 9 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「生活習慣病と行動変容」	地域医療学	川 本
10 月 16 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「家庭医による禁煙活動」	学外講師	加藤(川本)
10 月 23 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「多職種との連携」	地域医療学	川 本
10 月 30 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「高齢者医療と福祉」	学外講師	大原(川本)
11 月 6 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「在宅医療」	地域医療学	川 本
11 月 13 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 1」	地域医療学	川本
11 月 20 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「病院運営と患者ケア」	学外講師	宮岡(川本)
11 月 27 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「心のケア」	地域医療学	山岡(川本)
12 月 4 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 2」	地域医療学	熊 木
12 月 11 日木曜日	1 時限	地域医療への提言 「学生の主張」	地域医療学	川本・熊木

平成 26 年度 地域医療ワークショップ（地域卒学生対象）

	月 日	学 年	内 容
第 29 回	1.16	2 年生	医師のプロフェッショナリズム
第 30 回	4.17	全学年	各学年の自己紹介
第 31 回	5. 1	1 年生	地域を視診
第 32 回	5.15	4 年生	プライマリ・ケアで役立つ：一目瞭然症例
第 33 回	5.29	3 年生	地域医療を語る
第 34 回	6.12	2 年生	多職種役割を知る
第 35 回	6.26	1 年生	診療科の偏在を考える
第 36 回	7.10	4 年生	地域医療の醍醐味
第 37 回	10. 9	1 年生	早期地域医療体験を語る
第 38 回	10.23	3 年生	地域医療崩壊の処方箋を考える
第 39 回	11. 6	2 年生	診療科の偏在を考える
第 40 回	11.13	4 年生	日常病の臨床推論
第 41 回	11.20	1 年生	地域医療崩壊の処方箋を考える
第 42 回	11.27	2 年生	医師のプロフェッショナリズム
第 43 回	12. 4	3 年生	日常病の臨床推論



基礎配属学生の研究成果

研究テーマ

基礎配属 5 年生

- 第 25 回日本老年医学会四国地方会（推薦賞）（2014 年 2 月 23 日、徳島市）

医学科 1 年生と 5 年生を対象とした地域医療に対する意識調査

上本明日香、川本龍一、阿部雅則、楠木 智、小原克彦、三木哲郎

* 日本老年医学会雑誌 2015; 52:48-54. 掲載



- 愛媛大学プロジェクト E（優秀賞）

地域在住者における主観的健康感の背景と死亡に関する調査

小糸 秀、川本龍一、鈴木萌子、上本明日香、熊木天児、二宮大輔、阿部雅則

* 日本プライマリ・ケア連合学会雑誌 2015; 掲載予定



基礎配属 1 年生

- 第 14 回愛媛プライマリ・ケア研究会（2014 年 7 月 12 日、松山市）

医科学研究：新一年生の活動報告

上野竜太郎、原諒真、原田克己、本田僚佑、柳原千秋



第5学年臨床実習 地域医療学 班別名簿

合計 115 名（うち女子 55 名）＜○印は、女子を示す。＞							
	西予市立野村病院				久万高原町立病院		
1 班	○上本明日香	奥村 力			鍵山大起	竹本拓正	○矢口明那
2 班	○大西亜里香	尾崎智樹	○亀岡祐里		瀧川雄貴	竹内龍之介	○大内菜摘子
3 班	○篠崎智香子	○津本柊子	平岩厚佑		○宮澤 結	盛田 真	矢野敦之
4 班	○秋元真穂	○河本智里	○佐藤友理		地行健二	元家亮太	矢野 怜
5 班	○有安 奏	林 未来	山本周平		児玉篤典	○田中佐和	山添伸二
6 班	西岡龍太郎	中城晴喜	河野竜馬	○山根弘美	田所和樹	○富田麻優子	○小西絢子
7 班	萬代雄嗣	○浅井督子	窪地智也		楠目浩祐	○今井秀美	○岡田奈々枝
8 班	○西祐貴子	○勝部璃子	○井手香甫	吉永智昭	朝長 諒	江田哲信	安岐智晴
9 班	上乃 誠	井上翔太①	○河南幸乃		○野崎加那子	○吉原朋子	下田健文
10 班	○浅山理恵	倉科徹郎	久門啓志		近藤飛馬	○岡本莉奈	○大屋英里子
11 班	○武内香菜子	恩地裕史	能津昌平			○藤本 日向子	
12 班	○麻生沙和	井原康輔	○牛田真奈加		大坪 治喜	○桑原 奈都美	
13 班	○鈴木萌子	○武田明莉	○石井友里加		石谷 一馬	田中 諒	
14 班	山本 賢	○原井川果歩	○檜垣ひろみ		山田 瑞穂	○松場 瞳	
15 班	○清水ゆりえ	○森野由佳梨	中川公平		大月 悠平	千葉井 紀人	
16 班	井上翔太②	高木健次	○矢野晶子		小山 豊太	高木 康平	
17 班	宮地祥多	川井伸彦	小糸 秀		川合 喬之	近藤 賢之	
18 班	○青野仁美	西川浩輔	後藤克宏		風谷 卓郎	○末広 聡美	
19 班	○伊藤亜由美	○久保みか	立花亮祐		○岡部 はるか	桐山 洋介	



業 績

【原著】

Kawamoto R, Kohara K, Katoh T, Kusunoki T, Ohtsuka N, Abe M, Kumagi T, Miki T. Effect of weight loss on central systolic blood pressure in elderly community-dwelling persons.

Hypertens Res. 2014; 37: 933-938. (IF:2.936)

Kawamoto R, Kohara K, Katoh T, Kusunoki T, Ohtsuka N, Abe M, Kumagi T, Miki T. Brachial-ankle pulse wave velocity is a predictor of walking distance in community-dwelling adults.

Aging Clin Exp Res. 2014 Jul 19. (IF:1.136)

Kawamoto R, Kohara K, Katoh T, Kusunoki T, Ohtsuka N, Abe M, Kumagi T, Miki T. Changes in oxidized low-density lipoprotein cholesterol are associated with changes in handgrip strength in Japanese community-dwelling persons.

Endocrine. 2014 Jul 27. (IF:3.527)

Kawamoto R, Ninomiya D, Hasegawa Y, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T, Abe M. Mildly elevated serum bilirubin levels are negatively associated with carotid atherosclerosis among elderly persons.

PLoS One. 2014 Dec 5; 9: e114281. (IF:3.534)

Kawamoto R, Ninomiya D, Hasegawa Y, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T. Association between serum bilirubin and estimated glomerular filtration rate among elderly persons.

PLoS One. 2014 Dec 16; 9: e115294. (IF:3.534)

Hirooka M, Ochi H, Koizumi Y, Tokumoto Y, Hiraoka A, Kumagi T, Abe M, Tanaka H, Hiasa Y. Local recurrence of hepatocellular carcinoma in the tumor blood drainage area following radiofrequency ablation.

Mol Clin Oncol 2014 ;2;182-186.

Furukawa S, Yamamoto S, Maruyama K, Miyake T, Ueda T, Niiya T, Takatoshi S, Torisu M, Kumagi T, Sakai T, Minami H, Miyaoka H, Matsuura B, Hiasa Y, Onji M, Tanigawa T. Association between subclinical hypothyroidism and diabetic nephropathy in patients with type 2 diabetes mellitus.

Endocrine J 2014; 61; 1011-1018. (IF:1.997)

Miyake T, Kumagi T, Furukawa S, Hirooka M, Kawasaki K, Koizumi M, Todo Y, Yamamoto S, Abe M, Kitai K, Matsuura B, Hiasa Y. Hyperuricemia is a risk factor for the onset of impaired fasting glucose in men with a high plasma glucose level: a community-based study.

PLoS One. 2014; 9: e107882.

(IF:3.534)

Trivedi P, Kumagi T, Al-Harthy N, Coltescu C, Ward S, Cheung AC, Hirschfield GM. Good maternal and fetal outcomes in pregnancy associated with primary biliary cirrhosis.

Clin Gastroenterol Hepatol 2014;12:1179-1185. (IF:7.896)

Trivedi P, Bruns T, Cheung AC, Li KK, Kumagi T, Shah H, Corbett C, Al-Harthy N, Acarsu U, Coltescu C, Tripathi D, Neuberger J, Janssen H, Hirschfield GM. Optimising risk stratification in primary biliary cirrhosis: AST/platelet ratio index predicts outcome independent of ursodeoxycholic acid response.

J Hepatol 2014; 60; 1249–1258. (IF:11.336)

Lammers WJ, van Buuren HR, Hirschfield GM, Janssen HLA, Invernizzi P, Mason AL, Talwalkar J, Ponsioen CY, Floreani A, Corpechot C, Mayo MJ, Battezzati PM, Parés A, Nevens F, Burroughs AK, Kowdley KV, Trivedi PJ, Kumagi T, Cheung A, Lleo A, Imam M, Boonstra K, Cazzagon N, Franceschet I, Poupon R, Caballeria L, Pieri G, Kanwar P, Lindor KD, Hansen BE – on behalf of the Global PBC Study Group. Levels of alkaline phosphatase and bilirubin values are surrogate endpoints of outcome for patients with primary biliary cirrhosis – an international follow-up study.

Gastroenterology 2014 Dec;147(6):1338-49. (IF:16.716)

【症例報告】

Watanabe T, Tokumoto Y, Hirooka M, Koizumi Y, Tada F, Ochi H, Abe M, Kumagi T, Ikeda Y, Matsuura B, Takada K, Hiasa Y. An HBV-HIV co-infected patient treated with tenofovir-based therapy who achieved HBs antigen/antibody seroconversion.

Intern Med. 2014;53;1343-6. (IF:0.904)

Ohno Y, Kumagi T, Kuroda T, Koizumi M, Azemoto N, Yamanishi H, Oda M, Hirooka M, Abe M, Ikeda Y, Matsuura B, Onji M, Soga Y, Mizuno Y, Sugita A, Hiasa Y. Signet-ring cell carcinoma of the gallbladder complicated with pulmonary tumor thrombotic microangiopathy.

Intern Med. 2014;53;1125-9. (IF:0.904)

【学会発表】

第 25 回日本老年医学会四国地方会（2014 年 2 月 23 日、徳島市）

超高齢化社会を担う医学科 1 年生と 5 年生を対象とした地域医療に対する意識調査

上本明日香、川本龍一、阿部雅則、楠木 智、小原克彦、三木哲郎

山間地域における住民の主観的健康感—自らが“健康だ”と感じられるには—

鈴木萌子、川本龍一、小糸 秀、上本明日香、楠木 智、小原克彦、三木哲郎

第 111 回日本内科学会総会（2014 年 4 月 11 日-13 日、東京）

長期経過を追えた食道狭窄合併先天性表皮水疱症の一例

有友佳奈子、森健一郎、八木 専、有光英治、山本安則、川崎敬太郎、布井弘明、熊木天児、池田宜央、日浅陽一

腹水精査中に診断され、甲状腺機能低下症加療後に外科的切除を施行し得た膵管胆管合流異常に合併した胆嚢癌の一例

佐々木千世、熊木天児、黒田太良、小泉光仁、大野芳敬、藤堂裕彦、三宅映己、徳本良雄、高井昭洋、日浅陽一

第 87 回日本超音波医学会総会（2014 年 5 月 9 日-11 日、横浜）

健診肥満症例における膵エコー輝度レベル（Bright pancreas）の検討

廣岡昌史、越智裕紀、小泉洋平、多田藤政、徳本良雄、古川慎哉、熊木天児、阿部雅則、日浅陽一

第 5 回日本プライマリ・ケア連合学会（2014 年 5 月 10-11 日、岡山市）

地域在住者における中心血圧に対する体重減量の効果

川本龍一、加藤丈陽、楠木 智、阿部雅則、小原克彦、三木哲郎

第 87 回日本消化器内視鏡学会総会（2014 年 5 月 15 日-17 日、福岡）

胆管穿破の診断に管腔内超音波検査法が有用であった膵管内乳頭粘液性腫瘍の 3 例

小泉光仁、黒田太良、大野芳敬、畔元信明、山西浩文、熊木天児、日浅陽一

第 4 回肥満と消化器疾患研究会（2014 年 5 月 28 日、東京）

検診における生活習慣調査による非アルコール性脂肪肝疾患(NAFLD)患者の囲い込み

三宅映己、熊木天児、藤堂裕彦、山本 晋、古川慎哉、徳本良雄、廣岡昌史、池田宜央、阿部雅則、松浦文三、日浅陽一

愛媛大学プロジェクト E（2014 年 6 月 12 日、松山市）

地域在住者における主観的健康感の背景と死亡に関する調査

小糸 秀、鈴木萌子、上本明日香、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

第 56 回日本老年医学会総会（2014 年 6 月 12-14 日、福岡市）

地域在住者において血管 stiffness は運動療法に伴う歩行能力の改善を予期する

川本龍一、加藤丈陽、楠木 智、阿部雅則、小原克彦、三木哲郎

中高年の地域在住女性を対象としたいきいき健康大学において、運動療法に伴う中性脂肪と尿酸の低下はインスリン抵抗性の改善に相乗的に関係する。

加藤丈陽、川本龍一、楠木 智、阿部雅則、小原克彦、三木哲郎

第 101 回日本消化器病学会四国支部例会（2014 年 6 月 14 日-15 日、松山）

合同シンポジウム 1：消化器と生活習慣・生活習慣病

性差が生活習慣と非アルコール性脂肪肝疾患(NAFLD)の関係に及ぼす影響の検討

三宅映己、熊木天児、藤堂裕彦、山本 晋、古川慎哉、徳本良雄、廣岡昌史、池田宜央、阿部雅則、松浦文三、日浅陽一

2 型糖尿病患者における血糖値のコントロール状況が NASH の合併率に及ぼす影響の検討

布井弘明、三宅映己、藤堂裕彦、山本 晋、古川慎哉、徳本良雄、廣岡昌史、熊木天児、池田宜央、阿部雅則、松浦文三、日浅陽一

第 1 回肝臓と糖尿病代謝研究会（2014 年 7 月 4 日、東京）

検診受診者を対象とした睡眠時間が非アルコール性脂肪肝疾患(NAFLD)へ及ぼす影響の検討

三宅映己、熊木天児、藤堂裕彦、山本 晋、古川慎哉、徳本良雄、廣岡昌史、池田宜央、阿部雅則、松浦文三、日浅陽一

第 45 回日本膵臓学会大会（2014 年 7 月 11 日-12 日、北九州）

膵容積の変化が自己免疫性膵炎の治療経過に及ぼす影響

大野芳敬、熊木天児、黒田太良、小泉光仁、畔元信明、山西浩文、横田智行、松浦文三、日浅陽一

第 3 回四国門脈圧亢進症研究会（2014 年 7 月 26 日、高松）

食道癌に合併した食道静脈瘤に対し EIS を施行し安全に放射線化学療法を完遂できた一例

布井弘明、池田宜央、川崎敬太郎、宇都宮大貴、八木 専、有光英治、渡辺崇夫、山本安則、森健一郎、黒田太良、小泉光仁、熊木天児、阿部雅則、松浦文三、日浅陽一

第 52 回日本糖尿病学会中国四国地方会総会（2014 年 10 月 24 日-25 日、広島）

男性の短時間睡眠は NAFLD 発症に影響を及ぼす

三宅映己、熊木天児、藤堂裕彦、山本 晋、古川慎哉、新谷哲司、上田晃久、

宮内省蔵、南 尚佳、酒井武則、宮岡弘明、谷口嘉康、恩地森一、日浅陽一、
松浦文三

第 102 回日本消化器病学会四国支部例会 (2014 年 11 月 2 日-3 日、高松)

腹腔鏡下肝生検、経乳頭的胆管生検を施行し得た IgG4 関連硬化性胆管炎の一例

岡崎雄貴、大野芳敬、黒田太良、小泉光仁、多田藤政、徳本良雄、阿部雅則、
熊木天児、日浅陽一

第 113 回日本消化器内視鏡学会四国支部例会 (2014 年 11 月 2 日-3 日、高松)

合同シンポジウム：内視鏡治療の最前線

急性膵炎に伴う被包化壊死(WON)に対する内視鏡的ネクロセクトミーの経験

大野芳敬、熊木天児、黒田太良、小泉光仁、畔元信明、山西浩文、横田智行、
古田 聡、久保義一、日浅陽一

65th Annual Meeting of the American Association for the Study of the Liver

(2014.11. 7- 11. Boston, USA)

Pancreatic congestion in liver cirrhosis correlates with impaired insulin secretion

Kuroda T, Hirooka M, Koizumi M, Ochi H, Hisano Y, Bando K, Matsuura B, Kumagi T,
Hiasa Y

Sub-stratification of hepatocellular carcinoma risk in men with primary biliary cirrhosis: results of
an international multicenter study

Trivedi PJ, Lammers WJ, van Buuren HR, Floreani A, Pares A, Cheung AC, Ponsioen CY,
Corpechot C, Mayo MJ, Invernizzi P, Battezzati PM, Nevens F, Mason A, Kowdley KV,
Li KK, Bruns T, Imam M, Kumagi T, Cazzagon N, Franceschet I, Caballeria L, Boonstra
K, Poupon R, Lleo A, Lindor KD, Janssen HL, Hansen BE, Hirschfield GM

New model to identify UDCA-treated primary biliary cirrhosis patients in need of additional
therapy. Results of an international follow-up study of 4119 patients

Lammers WJ, van Buuren HR, Ponsioen CY, Janssen HL, Floreani A, Hirschfield GM,
Corpechot C, Mayo MJ, Invernizzi P, Battezzati PM, Pares A, Nevens F, Burroughs AK,
Mason A, Kowdley KV, Imam M, Boonstra K, Cheung AC, Kumagi T, Cazzagon N,
Franceschet I, Trivedi PJ, Poupon R, Lleo A, Caballeria L, Pieri G, Lindor KD, Hansen
BE

第 14 回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会 (2014 年 11 月 15-16 日、徳島市)

地域医療実習での学習効果と意識変容についての評価

二宮大輔、熊木天児、川本龍一

第 111 回日本内科学会四国地方会（2014 年 11 月 30 日、松山）

難治性掻痒感に対して rifampin が奏功した良性反復性肝内胆汁うっ滞症の 1 例

熊木天児

【研究会】

第 14 回愛媛プライマリ・ケア研究会（2014 年 7 月 12 日、松山市）

中高年の地域在住女性を対象とした運動療法に伴う中性脂肪と尿酸の低下はインスリン抵抗性の改善に相乗的に関係する－Nomura study いきいき健康大学－

加藤丈陽、川本龍一、楠木 智、阿部雅則、小原克彦、三木哲郎

愛媛大学地域医療学講座 基礎配属学生の実習内容と取り組み

上本明日香、小糸秀、鈴木萌子（地域医療学講座基礎配属）

意識障害で来院した脳底動脈先端症候群の 1 例

二宮大輔

ニューモシスチス肺炎を契機に後天性免疫不全症候群が判明した一例

長谷川 陽一

医科学研究：新一年生の活動報告

上野竜太郎、原諒真、原田克己、本田僚佑、柳原千秋

【講演】

広島大学特別講義（2014 年 1 月 10 日、広島市）

地域医療とは

川本龍一

糖尿病予防教室（2014 年 1 月 20 日、西予市）

糖尿病について学ぼう 予備軍から病気に移行しない為に

川本龍一

松山市民病院地域医療連携講演会（2014 年 2 月 6 日、松山市）

地域における内科医としてのプライマリ・ケア活動

川本龍一

川崎医科大学講義（2014年3月6日、倉敷市）

地域医療に関する特別講義

川本龍一

第4回中四国地域医療フォーラム（2014年3月8日、出雲市）

地域医療学講座の活動と課題

川本龍一、熊木天児、楠木 智

第4回泉州地域医療フォーラム（2014年5月10日、泉佐野市）

高齢化社会を担う地域医療医の役割

川本龍一

のむらいきいき健康大学（2014年5月21日、西予市）

身体のしくみと生活習慣病

川本龍一

生きがいデイサービス事業（2014年5月23日、西予市）

終末期の在り方

川本龍一

岐阜プライマリ・ケア/地域医療研究ネットワーク全体会議における基調講演

（2014年6月14日、岐阜県揖斐川町）

地域でも研究に目を向けよう 大学から地域へ、地域から大学へ

川本龍一

興和創薬社内ゼミ（2014年7月2日、松山市）

高齢化社会を担う地域医療医の役割

川本龍一

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社（2014年7月16日、松山市）

動脈硬化と生活習慣病

川本龍一

愛媛県サマーセミナー（2014.8.23 松山市）

地域医療の概要

二宮大輔

第8回愛媛大学学術フォーラム（2014年9月5日、松山市）

地域における研究活動—地域から大学へ 大学から地域へ—

川本龍一

ロールプレイ研修（2014年9月13日、松山市）

糖尿病領域専門MRが医療従事者のニーズにあった専門性の高い情報提供を行うために

川本龍一

生きがいデイサービス事業（2014年10月16日、西予市）

寿命延長と肺炎予防—肺炎球菌ワクチンのすすめ—

二宮大輔

第51回日本内科学会四国支部主催生涯教育講演会（2014年11月30日、松山市）

高齢化社会に期待される総合診療医の役割

川本龍一

第4回愛媛大学医学部附属病院地域医療再生セミナー（2014年12月1日、東温市）

地域医療学講座の活動報告

川本龍一、熊木天児、二宮大輔

愛媛民意連2014年度第1回医師団会議（2014年12月6日、松山市）

高齢化社会に期待される家庭医の役割

川本龍一

生きがいデイサービス事業（2014年12月22日、西予市）

終末期の在り方

川本龍一

【座長】

川本龍一

南予自治医の会（2014年4月30日、宇和島市）

「糖尿病治療の最近の話題」

愛媛十全医療学院附属病院副院長：高原 完祐 先生

地域で「生きて逝く」を考える（平成26年5月21日、西予市）

生きて逝く

綾川町国民保健陶病院院長：大原 昌樹 先生

糖尿病学術研究会（2014年6月19日、松山市）

腎症の克服を目指した糖尿病治療戦略

旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野教授：羽田 勝計 先生

南予自治医の会（2014年6月25日、宇和島市）

「COPDの実地診療について—高齢社会における診断と治療の重要性—」

愛媛大学医学部附属病院呼吸器センター講師：伊東 亮治 先生

第14回愛媛プライマリ・ケア研究会（2014年7月12日、松山市）

「地域包括ケアからまちづくり—地域医療はおもしろい」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座：佐藤 勝 先生

平成25年度愛媛県主催 地域医療夏季サマーセミナー（2014年8月23日、東温市）

「愛媛で地域医療をするために—あなたはどのような医師になりますか—」

自治医科大学と愛媛大学地域卒学生

南予糖尿病フォーラム2014（2014年9月10日、宇和島市）

「臨床現場での血糖管理」

西条中央病院糖尿病内科部長：藤原 正純 先生

第6回自治医大糖尿病勉強会 in 愛媛（2014年10月11日、松山市）

「血圧・血糖変動性が示すもの—臨床的有用性は？—」

自治医科大学内科学講座循環器内科部門准教授：江口 和男 先生

第14回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会（2014年11月15-16日、徳島市）

一般演題第4セッション（学生教育）

熊木天児

第101回日本消化器病学会四国支部例会（2014年6月14日-15日、松山市）

一般演題：膵疾患

第9回愛媛膵臓・代謝カンファレンス（2014年10月11日、松山市）

「膵疾患と栄養評価～膵炎、膵癌を中心に～」

京都府立医科大学大学院医学系研究科消化器内科学講師 阪上 順一先生

第 111 回日本内科学会四国地方会 (2014 年 11 月 30 日、松山市)

一般演題：消化器疾患

講座関連の研究費

【研究費】

代表

- 財団法人地域社会振興財団：山間地域における生活習慣病に関する研究（2014年4月～現在）
- 科学研究費 基盤研究（C）：専門職連携教育による地域医療実習を通じて形成される地域志向性を評価する尺度の開発（2012年4月～2015年3月）

協力

- 高齢者高血圧コホート研究（2004年10月～現在）
- Japan Diabetes Complication and its Prevention Prospective Study（2008年6月～現在）
- EWTOPIA 75 試験（2010年4月～現在）

そ の 他

【教育活動】

地域医療学講座西予市地域サテライトセンター（西予市野村病院）での実績

- 初期研修医（地域医療）2014年度 12名
- 後期研修医 2013年度（地域医療・総合医後期研修コース）2名

地域医療学講座久万高原町地域サテライトセンター（久万高原町立病院）での実績

- 後期研修医（家庭医養成愛プログラム）2014年度 1名

【授賞】

- 愛媛大学医学部医学科 Best Teacher 賞（熊木）

【委員会活動】

学内

- 卒後臨床研修管理委員会（川本）：2010年度から
- 地域医療奨学生ワーキンググループ委員会（川本）：2011年度から
- 地域医療支援センター組織・運営委員会（川本）：2011年度から
- 医学専攻学務委員会（川本）：2011年度から
- 地域医療推進委員会（川本）：2012年度から
- 教務委員会（川本）：2011年度から
- 学務委員会（川本）：2011年度から
- 愛媛県地域医療支援センター運営委員会医師確保支援部会（川本）：2014年度から
- 医学部研究倫理委員会（熊木）：2010年度から
- 医学部附属病院総合臨床研修管理委員会（熊木）：2013年度から
- 学生生活委員会（熊木）：2015年度から
- 全学リレーション委員会（熊木）：2015年度から

学外

- 日本プライマリ・ケア連合学会評議員会（川本）：1999年度から
- 日本老年医学会代議員会（川本）：1999年度から
- 日本内科学会四国支部評議員会（川本）：2009年度から
- 日本老年医学会邦文雑誌編集委員会（川本）：2010年度から
- 愛媛県へき地医療支援計画策定等会議委員会（川本）：2005年度から
- 訪問看護ステーション東宇和運営協議会（川本）：2005年度から
- 愛媛県立中央病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2007年度から
- 愛媛大学医学部関連病院長会議専門部委員会（川本）：2009年度から

- 済生会松山病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011 年度から 2014 年度
- 西予市立野村病院運営委員会（川本）：2009 年度から
- 日本内科学会四国支部評議員会（熊木）：2009 年度から
- 日本消化器病学会四国支部評議員会（熊木）：2009 年度から
- 日本消化器病学会全国評議員会（熊木）：2015 年度から
- 日本消化器内視鏡学会四国支部評議員会（熊木）：2015 年度から
- 日本肝臓学会西部会評議員会（熊木）：2009 年度から

2014年1月28日 愛媛大学 I report

2014年12月2日 愛媛新聞

地域医療学



医学部 2014年01月29日

担当教員:川本 龍一 対象:医学部3年生～

この授業では、地域医療の在り方と現状、課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を身につけ、地域の医療現場における患者中心のチーム医療の一員としての医師の役割および何科にすんでも大切な基本診療・プライマリ・ケアの重要性を理解することを目的としています。

授業内容
 地域医療に関する問題として、「医師の絶対的不足」「医師の偏在」「医療需要の増加(高齢化)」「勤務医の負担増」などが上げられます。
 この授業では、家庭医療・地域医療の基礎を身につけるため、家庭・地域を単位として見る(診る)手法を学び、ライフサイクルを踏まえた医療の展開方法を学びます。実際に、医療の第一線で働く医師を招いて、現場の話や患者の生の声、現場の「もしその場に医師としていたら、どのような対応が一番患者さんのためになるか」といったことを考える場面もあったそうです。
 今回は、これまでの授業を振り返って、受講生全員が「地域医療」について自分なりの考えや提言を述べました。講義で学んだ事や医療現場を訪問するバスツアーなどの経験を通じて、受講する前と後での「地域医療」に対するイメージの変化や「地域医療」の本当の意味や必要性、医師として必要な心構えや変えていかなければならない現在の制度など、様々な観点からの提言がありました。
 その中には「今後、高齢化が更に進むにつれて、在宅医療が行える環境を整える必要があると思う。そうすれば、医師が家庭に入って、家族と一緒に治療を行えるため、患者にあった治療や家族が希望する治療を行えるのではないかと」といった意見の他、離島医療についての提言などがありました。
 この他にも、様々な意見が述べられ、共感する受講生もいれば、反対の意見を主張する受講生もいたり、それぞれが刺激を受ける授業となりました。

教員からのコメント
 地域医療に関する教育では、あらゆるテーマにおいて、地域社会、住民、家族、職場、保健・医療・福祉の現場との関わりを想定しながら学ぶよう促します。学生には、患者の内に潜むミクロな事象に目を向けると同時に、患者を取り巻くマクロな事象にも目を向けることの重要性も伝えるように心がけています。
 高齢化が進む今日では、要介護者の増加、生活習慣病の増加、疾病の多様化や複雑化など、医療問題が深刻になっています。そのような中、医師に求められているものは、疾病の診療のみならず、家族、職場、地域を視野に入れた全人的な幅広い医療活動です。高齢者医療、在宅医療、終末期医療、プライマリ・ケアといったキーワードもその中から必然的に生まれてきます。これらは、まさに地域医療そのものであり、学生には医療・保健・福祉に精通し、それらの連携の中で患者中心のケアを展開するにはどのようにすべきかを具体的な事例を交えながら伝えています。
 地域医療といえば、へき地での医療が想定され、医療現場の崩壊や過酷な労働条件、羨みが少ないなどのマイナスイメージが取り上げられがちですが、学生達は5年生時に行われる地域病院実習などで実際に体験することにより、やりがいや面白みなども実感しています。
 実は都会での医療も地域医療であり、患者を全人的に捉える地域医療のスキルは臨床において基礎となるものであるということを知ってもらいたいと思います。

学生からのコメント
 地域医療学講座では、現在の地域医療の実態、高齢者医療のみにとどまらず、日本と世界の医療との違いや、総合医についてなど多くのことを学びました。普段の授業とは異なり、実際の受講生の例を基に、患者さんが満足できる治療法を考えるなど、参加型の授業で大変興味深い授業でした。
 また、授業は一人の先生がずっと行うのではなく、オムニバス形式で実際の現場で活躍されている方が来てくださる授業スタイルでした。第一線で働く方々の話を聞くことは、地域医療への理解を深めるだけでなく、モチベーションも高まり、他の勉学にも良い影響があると思います。

地域医療の課題共有

愛媛大学 医学部 セミナーで意見交換



県内で地域医療に携わる市町の医療機関や行政関係者が意見交換したセミナーが1日、東温市志津川の愛媛大医学部で開かれた。

愛媛大医学部では、13人が活動報告や講演、討論を通じ、現状や課題を共有した。四国中央市の病院に勤務して宇摩圏域で診療・研究を続ける間島直彦准教授(地域医療再生学)は、高齢者に多い骨脆弱(せいじやく)・骨骨折に着目し、退院後の再骨折防止を目的とした急性期病院での骨粗しょう症評

愛媛大医学部で、13人が活動報告や講演、討論を通じ、現状や課題を共有した。四国中央市の病院に勤務して宇摩圏域で診療・研究を続ける間島直彦准教授(地域医療再生学)は、高齢者に多い骨脆弱(せいじやく)・骨骨折に着目し、退院後の再骨折防止を目的とした急性期病院での骨粗しょう症評

同での部分的広域体制を紹介。医師不足の中で治療が重要と指摘する区と大洲・喜多地区合

平成 25年 2月 29日 愛媛新聞

検証 第2の「芽出し」

15年度県当初予算案

「10年度は、特に養育費補助など、15年度は、医療費負担軽減策を重点的に実施する。また、10年度に引き続き、15年度も高齢者医療費の負担軽減策を重点的に実施する。また、10年度に引き続き、15年度も高齢者医療費の負担軽減策を重点的に実施する。」

県は、10年度に引き続き、15年度も高齢者医療費の負担軽減策を重点的に実施する。また、10年度に引き続き、15年度も高齢者医療費の負担軽減策を重点的に実施する。

県は、10年度に引き続き、15年度も高齢者医療費の負担軽減策を重点的に実施する。また、10年度に引き続き、15年度も高齢者医療費の負担軽減策を重点的に実施する。

県は、10年度に引き続き、15年度も高齢者医療費の負担軽減策を重点的に実施する。また、10年度に引き続き、15年度も高齢者医療費の負担軽減策を重点的に実施する。

編集後記

愛媛大学に地域医療学講座が設置されたのは平成 21 年です。ちょうどその年に地域枠奨学制度による医学生が入学しました。その第 1 期生 10 名が昨年 3 月に卒業し、現在は医学部附属病院で初期臨床研修を行っています。そして第 2 期生も卒業し、いよいよ地域医療強化に向けてゴングが鳴ろうとしております。地域枠奨学制度を利用して入学している医学生の大半が、総合診療やプライマリ・ケアに関心を持っており、地域に密着した病院で働くことを望んでいると思われます。その彼らの期待（＝住民の期待）に応えるためにも、当講座の果たす役割も大きくなっているのが現状であります。一方ではキャリアアップを心配しているのも現状です。各種専門医制度の変革期にあたり、当講座としても柔軟な対応で臨みたいと思います。

将来の医療、特に県内の地域医療を担う若者たちの育成のため、今後も当講座としての役割を果たして行く所存です。つきまして、皆様におかれましても未来の地域医療発展のためにも、学生実習および研修医育成に引き続きご協力および温かいご支援を賜りたい次第です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

末筆とはなりますが、皆様方のご健康と今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

編集担当 熊木天児